

ミステリ読書案内

2022. 11. 22 発行元

第419号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

F・W・クロフツの代表作

今度はF・W・クロフツの代表作である。アリバイ崩しだったり、警察による地道な捜査だったり、倒叙ものだったり、その後のミステリに大きな影響を与えた作家。ミステリの古典として読んでほしいものである。

創元推理文庫を中心にして

F・W・クロフツの『ベスト表』は第12号に、『どの順番で読むか』は第161号に書いてある。そこで題名だけは紹介していたが、中身については未紹介になっていた。

私は大学生になって本格的にミステリを読み始め、創元推理文庫の探偵マークの本を順番に読み進めた。クロフツも早い段階から読むようになり、エラリー・クイーンとは異なる魅力を感じ夢中になった。

手元にあるクロフツ作品の半分以上は創元推理文庫版である。今回代表作に選んだ3冊はいずれも創

元版。その後ハヤカワ・ミステリ文庫でも何冊か出るようになったが、馴染みがあるのは創元版である。

クロフツは日本で幅広く読まれる作家ではないらしく、発行部数が少なく、手に入りにくい状況はずっと続いているような気がする。一時期、創元の新版が出てホッとしたこともあったのだけれども、その後はまたじりじりと古書価が上がり始めているようだ。

クロフツは「本格もの」の基本位置に属するミステリ。でも、「警察小説」につながる現実性重視の側面もある。そんな古典としての作品を若い人たちにも是非読んでほしい。

NO.3「クロイドン発12時30分」

1934年。「倒叙推理小説」の代表とされる一冊。「誰がやったか」ではなく、「どうして発見に成功したか」に焦点を当てている。後の『刑事コロンボ』にもこの形式が多い。

お金持ちの老人・アンドリュウがクロイドン発パリ行き飛行機の中で亡くなった。これが第一章。次の第二章からはアンドリュウの甥で工場経営者のチャールズ・スウィンバーンの視点に変わる。事件の起きる前の経緯から始まり、計画段階から綿密に組み立てたことが伝わるように描かれていく。事後の捜査でも犯人側から見た状況で対応が記されている。最後の二つの章が「フレンチ、解説をはじめ」「フレンチ、解説を終わる」となり、捜査側からの結論が述べられる。

NO.1「樽」

1920年。あまりにも有名なクロフツのデビュー作。創元版の初版は1960年。私の手元にあるのは1973年の23版で当時260円だった。世界のミステリ・ベスト10に入る名作。

ロンドンの港での船からの荷下ろし作業。パリの美術商から発送された樽が綱から外れて落下。壊れた拍子に金貨が零れ落ち、不思議に思った作業員がしてみると、死人の手が見えた。急いで警察に連絡している間に肝心の樽が消えてしまったという発端。ロンドン警視庁のバーンリ警部の捜索が始まり、第一部の最後で樽が発見され、中から若い女性の死体が出てくる。続いての第二部では舞台をパリに移す。バーンリ警部はパリ警視庁の探偵の協力を得て、被害者の身許の特定を急ぐ。やがて容疑者が絞られる。……でも、事件はこれで終わらない。再検討が加えられていく。真犯人にたどり着くまでには越えなければならない山が……

基本的には「アリバイ崩し」のミステリ。「樽」の移動に注目しながら、複雑にストーリーは組み立てられている。捜査側も足で稼ぐ捜査であり、何度も壁に当たり、その都度吟味し、必要に応じて元に戻り別の道を探っていく。読者が思う以上に執拗な検討が加えられる。さて、どこに打開の糸口があるのか……

No.2「フローテ公園の殺人」

1923年。第四作に当たる。クロフツ初期の代表作は本書以外にも多数あるのだが、本書は日本で手に入りにくいものの代表になった時期があるので取り上げてみた。私の手元にあるのは創元版・1973年の5版。長らく絶版状態になっていたことがある。

舞台は南アフリカ共和国。クロフツ得意の鉄道の話からスタートする。ミデルドルフ駅の信号手が線路伝いの帰り道で、トンネル内に男の轢死体があることを発見。ファンダム警部が捜査を開始する。よく観察すると、どうやら別の場所で殺された後に、線路上に遺棄されたもののように感じられた。線路脇にあるフローテ公園の中にある植木鉢小屋が荒らされており、そこが第一の現場らしいことが判明。やがて被害者が誰かも明らかになっていった。そして、容疑者らしき人物が特定され、裁判になるのだが……。第二部は舞台が変わってスコットランドになる。関係者が移動し、新たな展開を見せる。事件はスコットランドのロス警部に引き継がれることになる。登場人物がそう多くないので、裏に隠れている犯人の見当はつくのだが、証拠を踏まえての追求は困難を極める。フレンチ警部登場直前の作品。名前は違っても人物像はフレンチ警部そのもの。